

# 「自分の命は自分で守る」ことができる児童の育成

## —「生命(いのち)の安全教育」を通じて—

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 養護教育実践系

長田 雪

本実践は、生涯に渡って「自分の命は自分で守る」ことができる児童の育成を目的に、文部科学省が推進している「生命(いのち)の安全教育」を養護教諭として実践した。近年、情報化社会は進化する一方であり、コミュニケーションの手段がインターネットを利用したオンラインを中心としたものへと変化している。児童がインターネットを利用している中で、予期せぬトラブルに遭遇する場合も想定できる。このような現状を踏まえ、実践では全学年を対象に、実践①「自分の身体は宝物」として、命の大切さを伝え、実践②「生命(いのち)の安全教育①」では、自分を守る方法を伝えた。実践③「生命(いのち)の安全教育②」では、SNSに潜んでいる危険から身を守る方法を、実践④「情報発信」では、「ほけんだより」の作成を実施した。実践後には、児童からプライベートゾーンについての会話や、他者との関わりの中で自分を大切にしたい行動を考える児童の姿が感じられた。